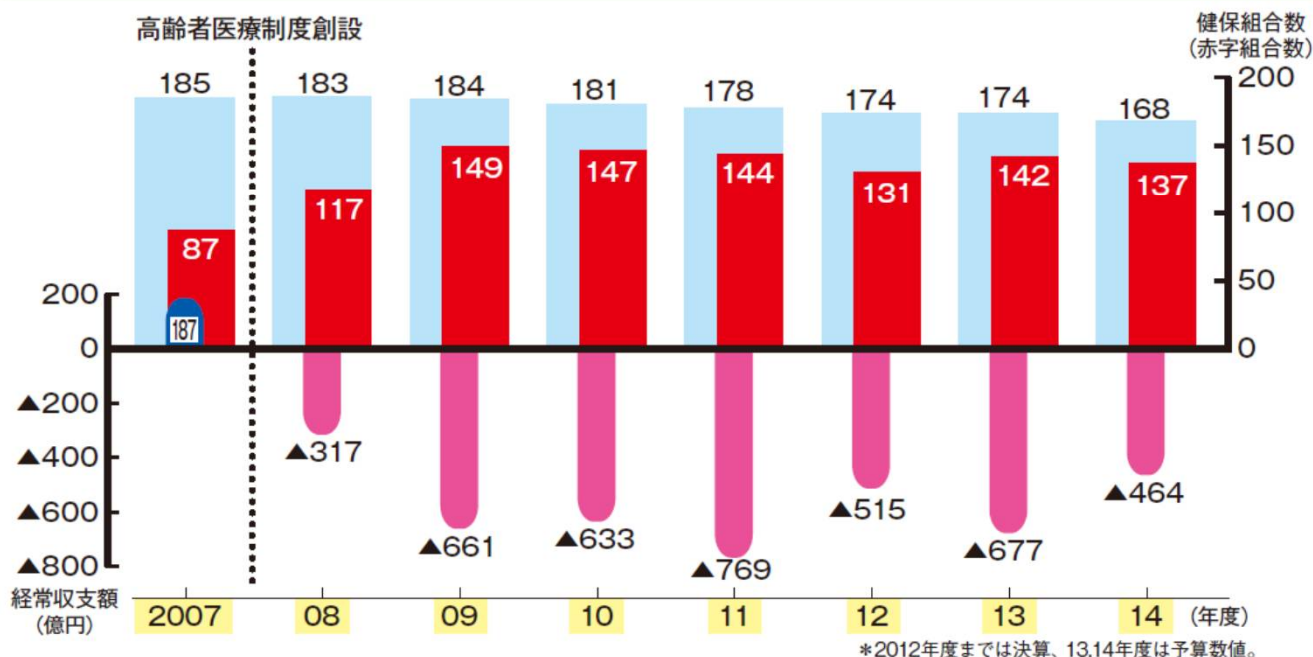
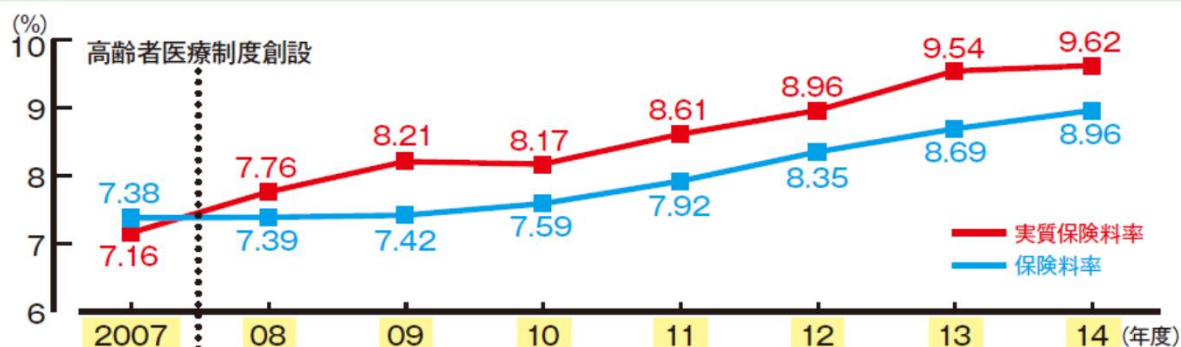


7年連続で巨額の経常赤字



- 大阪府には現在、168の健康保険組合があります。加入者数は、被保険者166万人、家族154万人で、合計320万人となっています。
- 健保組合数は漸減傾向にあります。しかし、赤字の健保組合は逆に増加傾向を示しています。2014年度には137組合（81.55%）が赤字を見込んでいます。
- 大阪府の健保組合の予算規模は、2014年度に総額9,000億円ですが、464億円の経常収支赤字を計上しています。巨額の赤字は、高齢者医療制度が創設された2008年度から7年間ずっと続いています。

上昇続く保険料率



- 健保組合では、財政悪化のために保険料率を引き上げざるをえない状態が続いています。高齢者医療制度創設前の2007年度に7.38%だった平均保険料率は、毎年上昇を続け、2014年度には8.96%に達しています。
- この3年間で保険料率を引き上げたのは、2012年度88組合（50.57%）、2013年度64組合（36.78%）、2014年度55組合（32.74%）にのぼっています。なかには2年連続して保険料率を引き上げた組合もあります。協会けんぽの保険料率（10%）以上の組合は39組合になっています。
- 実質保険料率は、健保組合がその年に事業運営をするために、実質的にどの程度の保険料率の賦課が必要かを示す財政指標です。黒字だった2007年度に、実質保険料率は賦課保険料率を下回っていましたが、その後逆転して差が開いたままの状態となっており、苦しい財政状況が続いていることを示しています。